

いつも当社システムをご利用いただきありがとうございます。
今月分の請求書をご査収の程よろしくお願い申し上げます。

いつも大変お世話になりありがとうございます。

立春がすぎ、陽光も春めきはじめて今日この頃です。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

大阪・あべのハルカス美術館で2月2日から開催中の「円空 — 旅して、彫って、祈って —」を観にいってきました。荒けずり彫法の素朴な仏像で知られる円空さん。まだ一度も実物を見たことがなくて、とても楽しみにしておりました。勝手に小ぶりの仏像が多いのかと思っていましたら、入ってすぐに大きな仏像が！（写真一番上）3メートルほどもありそうな大きな作品もいくつか展示されていました。

円空は江戸時代前期 1632 年に美濃国に生まれ、仏門に入り、諸国を遍歴しながら「12万体の仏を彫る」と誓願を立て、各地に円空仏とよばれる仏像を残しました。寺社からの依頼だけでなく、寺も仏もないような辺境の村をたずね、宿や食事のお礼として作ったこともあり、岐阜・愛知から東北～北海道に 5000 体以上が現存しています。そのなかの 3000 体以上が愛知県にあり、名古屋の荒子観音寺には 1200 体余りの円空仏が残っているそうです。

自由奔放で大胆な彫り方が特徴的な円空仏ですが、初期の作品は丁寧に仕上げられていました。大胆な作風の反面、この世のすべてのものに神仏が宿っていると考えた円空は、木を無駄にしないように工夫し、小さな木っ端にも目鼻をつけて小さな仏様をつくりました。木くずも捨てることなく残したと伝わっています。また、自分の考えで仏像を彫ったのではなく、木そのものの特徴を生かし、ひとつひとつの木の中に神仏を見出し、その姿を彫りだしていったそうです。

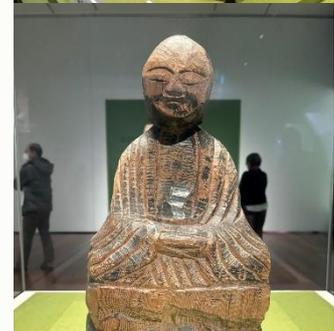
写真上から3番目は「^{りょうめんすくな}両面宿讎坐像」、なんか聞いたことあるなーと思ったら、人気マンガ「呪術廻戦」でお馴染みですね。頭の前後に顔がある鬼神を、円空は背中に負ぶったように表現しています。鬼神といえどもチャーミングです。

これに限らず、どの仏様も愛らしく、どこか微笑みをたたえているように感じました。またどの像も、横から見た姿がとても美しいことも印象的でした。一刀彫で荒々しく削っているのに、どこから見てもバランスよく美しく出来上がっているのが不思議です。木そのものが持っている調和と美を彫りだしていけば、意図せずともそうなるのでしょうか。おもわず両手を合わせて、祈らずにはいられませんでした。

中でも個人的なイチオシは、写真一番下の、周囲のあらゆるものを優しく包み込み溶かしていくような微笑みの「^{びんずる}賓頭盧尊者坐像」です。解説には、1685 年ころの作品で『円空が自身の姿を彫ったとも伝えるが、表面には永年撫でられてきたような艶があり、「撫で仏」賓頭盧尊者の像であろう。』と書いていました。いつかまた、岐阜県の千光寺へ賓頭盧尊者像に会いに行きたいです。

暖冬で気が緩んでいると、急に寒くなりますね。

春まであともう少しですが、まだまだ油断せず、皆さまもどうぞお身体をたいせつに、暖かく健やかに過ごしてくださいませ。



今月も最後まで読んで頂きまして、
ありがとうございました。
来月もよろしく願いいたします。